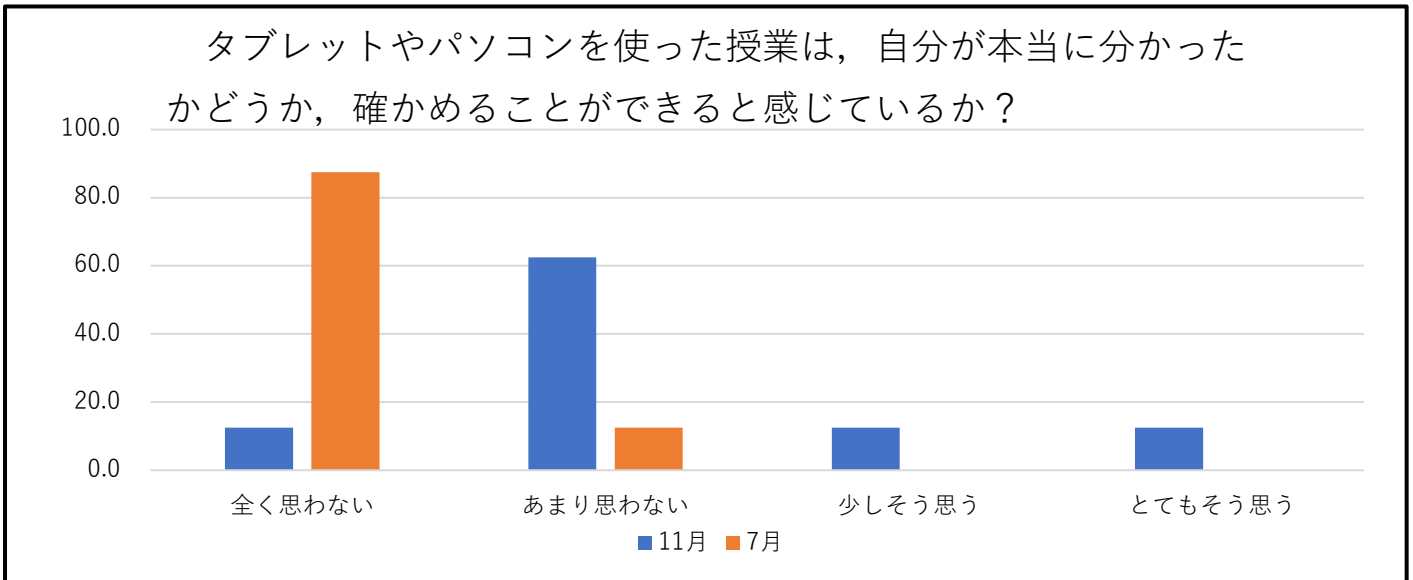
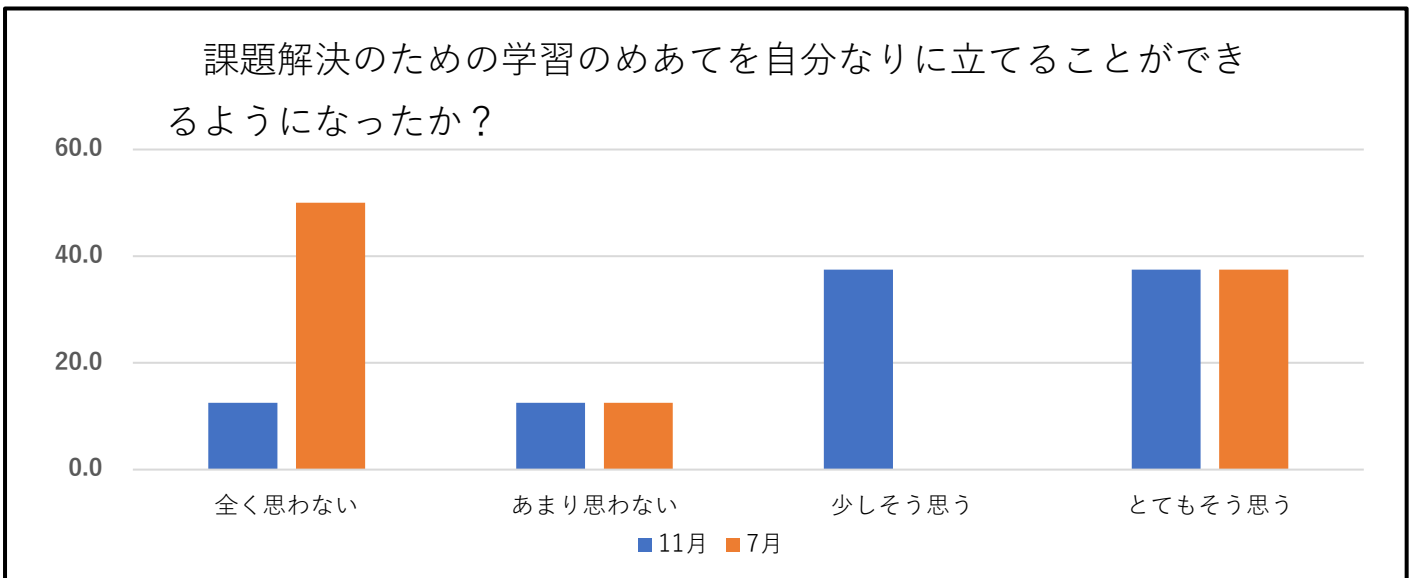


1・2年生の授業後の変容



	変数 1	変数 2
平均	2.75	3.875
分散	0.785714286	0.125
観測数	8	8
ピアソン相関	-0.113960576	
仮説平均との差異	0	
自由度	7	
t	-3.210777306	
P(T<=t) 片側	0.00742103	
t 境界値 片側	1.894578605	
P(T<=t) 両側	0.01484206	
t 境界値 両側	2.364624252	



7月と11月の、タブレットやパソコンを使った授業は、自分が本当に分かったかどうか、確かめることができるという意識の差が、統計的に優位か確かめるために、有位水準5%で両側検定のt検定を行った。その結果、 $t(7)=3.21, p<.01$ であり、二つのデータには優位な差が見られた。

課題解決のためのめあてを自分なりに立てることに関しては、有意差は見られなかったが、意識の変容を捉えることができる。今後も「めあての立て方」を指導していく必要がある。